

入学式式辞

花冷えながらも、春の香り漂う本日、同窓会 篠崎 洋子様、PTA会長 小此木 勝様をはじめとする御来賓、保護者の皆様の御臨席を賜り、平成二十七年度入学式を挙げていきますことは、この上ない喜びであり、皆様に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

只今、入学を許可しました二百名の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんの入学に対して、教職員を代表してお祝いするとともに、皆さんが、本日から、私たち鹿沼東高の仲間となりますことを、心から歓迎いたします。

本校は、一九八三年四月に開校し、本年度で三十三年目を迎えます。

勉学に勤しむだけでなく、部活動や学校行事、ボランティアなど様々な地域活動を通して、人格の陶冶、完成をめざす文武両道の進学校として、ますます期待と信頼を寄せられている学校であります。

また、文武両道とともに、潤いと活力ある学校生活、きめ細かい親身な指導による進路支援を特色としており、日頃から職員は、その実現に努めております。

一方、教育を受ける皆さんにとっては、教科書で学ぶ、先生から学ぶ、学校で学ぶという受け身の姿勢だけでは、十分に実りある高校生活とはなりません。

自らも授業をつくる、学校をつくる、伝統をつくるという主体的な意識で向かい合うとき、「皆さんが学校を必要とする」から一歩進んで「学校の歴史・伝説が、皆さん一人ひとりを不可欠な存在とする」に変わるはずです。3年後の自分がどのような姿で学校生活を送っていたいのか、理想の姿を、本日この入学の期に、頭にしっかりと描いてください。

そして今ひとつ。本校には、積み重ねてきた歴史の中で、九千五百名を超える卒業生に脈々として受け継がれてきた精神があります。

それは、本校の校訓「流汗悟道」です。その意味するところは、「汗を流して道を悟る」ということであり、言い換えれば「努力すればいかに生きるべきかがわかる」ということです。

「天才とは、1%のひらめきと99%の汗である」という有名な言葉を残した発明王トーマス・エジソンには、白熱電球に関する研究をしていたときの有名なエピソードがあります。当時、ジョゼフ・スワンによって発明されていた白熱電球は、寿命が約13時間しかありませんでした。その点灯時間を長くするためには、発光する部分であるフィラメントの耐久性の向上が求められていました。エジソンは色々な材料を使って実験をしました。そして途轍もない試行錯誤の末、京都八幡(やわた)の竹の繊維を炭化したフィラメントを開発し、白熱電球の実用化に

成功します。

その途中あるとき、周りから「もう一万回は失敗しているのだから、電球の発明から手をひいたらどうか」とアドバイスされたそうですが、エジソンは「失敗したのではない、一万回うまくゆかない方法を見つけたのだ」と答えたと言います。

エジソンは、一つ一つの失敗を、新たな発見や発明のヒントにしました。何かに継続して真剣に取り組むことにより、「失敗」は「失敗」ではなくなり、価値ある経験の一つに変わります。

入学する皆さんは、これからの三年間、優れた授業、伝統と特色ある数々の学校行事、活気溢れる部活動など、本校の教育環境を最大限に生かして、全力で取り組む中から、自分が真にやりたいこと、人としてあるべき道を見出していってください。

結びになりますが、保護者の皆様、お子様の御入学、誠におめでとうございます。合格者発表の日、そして本日のお子様の姿に、感慨いかばかりかと御拝察いたします。私どもに寄せられている大きな期待をしっかりと受け止め、教職員一同、一丸となってお子様一人一人の夢の実現のために努力を惜しまない所存でございます。ともにお子様を育てていくという意識のもと、本校の教育に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

そして、新入生の皆さんのこれからの成長と活躍を期待し、式辞といたします。

平成二十七年四月七日

栃木県立鹿沼東高等学校長 大森 亮一